

脈診

基礎知識と実践ガイド

何金森—監修—山田勝則—著—

A5判／並製／296頁／定価本体3,200円＋税



初学者必携の脈診指南書

本書は脈診の学習中に多くの初学者が入門途上で感じる戸惑いやわかりにくい問題を、わかりやすく内容のある表現で解釈している。「簡明扼要、易学易記」(簡単明瞭で要点をおさえ、学びやすく記憶しやすい)で、実に初学者の参考にするには得難いものである。

——何金森〈序より〉

【本書の特長】

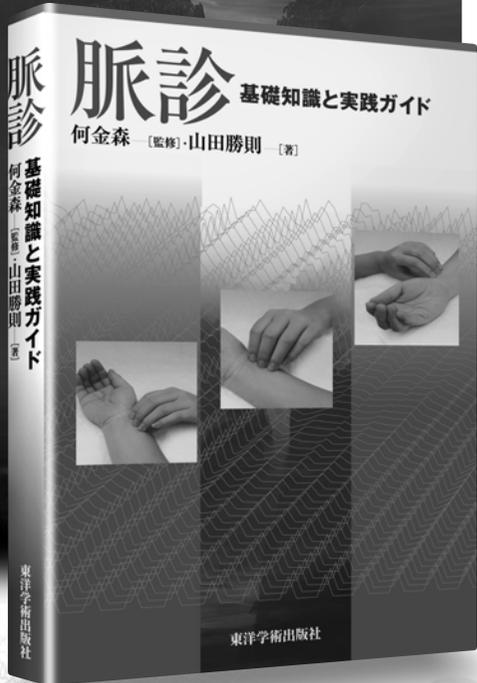
中医学の伝統的な理論にのっとった脈診ガイド。

- ◆ 一般に脈診を本で学ぶことは難しいといわれるが、本書ではそれが可能。
- ◆ 脈理を理解することで、脈象の膨大な内容を暗記する必要がなくなる。
- ◆ 脈象の基準をはっきりさせることで、脈象判断が確かなものになる。
- ◆ 豊富な図解で、複雑な脈診が学びやすく、記憶しやすい。
- ◆ 初学者が感じる戸惑いやわかりにくさを、わかりやすく内容のある表現で解説。

脈診を学んだのに臨床で使えない。なぜか——

- 脈理の知識不足——さまざまな脈が現れる理由を理解できていない。
- 脈象の基準がない——脈象を判断する拠りどころがはっきりしていない。
- 暗記に依存している——病脈と病気の関係を忘れてしまう。

[本書を通読することによって、これらの問題点はすべて解決する。]



中医学を学ぶための雑誌『中医臨床』(季刊)ますます面白く、実用的な内容になっています。



東洋学術出版社

ご注文は、メールまたはフリーダイヤルFAXで

FAX.0120-727-060

〒272-0822 千葉県市川市宮久保3-1-5 / TEL.047-371-8337 / E-mail: hanbai@chuui.co.jp / ホームページ <http://www.chuui.co.jp/>

■主な目次と内容見本

第1部 脈理篇

1. 脈の基礎知識
 - 平脈とは何か
 - 脈診の基礎となる脈
 - 気血・陰陽・病邪と脈の関係
2. 基本病脈
 - 浮沈の脈理
 - 長短の脈理
 - 大小の脈理
 - 遅数の脈理
 - 柔和有力の脈理
 - 滑渋の脈理
 - 停止の脈理
 - 気血津液弁証から脈象を導く

第2部 脈診篇

1. 脈診の基礎
 - 患者の個性差
 - 外部環境
 - 脈診の基本的な方法
 - 症候との関係
2. 基本病脈の基準
 - 脈の深さを決める
 - 脈の長さを決める
 - 脈の太さを決める
 - 脈の速さを決める
 - 脈の強さを決める
 - 脈の流れを決める
 - 停止を決める
3. 脈診の進め方
 - 脈診表
 - 脈診表の使い方
 - 最後に

第3部 病脈篇

1. 病脈の学び方
2. 浮網脈
 - 浮脈／芤脈／洪脈
 - 革脈／濡脈／散脈
3. 沈網脈
 - 沈脈／伏脈／弱脈／牢脈
4. 遲網脈
 - 遲脈／緩脈／澁脈／結脈／代脈
5. 數網脈
 - 數脈／動脈／促脈
6. 虛網脈
 - 虛脈／短脈／細脈／微脈
7. 実網脈
 - 実脈／長脈／弦脈
 - 緊脈／滑脈／大脈

付録篇 脈診の臨床実践の例「相兼脈」

1. 病脈の復習
 - 浮網脈の6脈
 - 沈網脈の4脈
 - 遲網脈の5脈
 - 數網脈の3脈
 - 虛網脈の4脈
 - 実網脈の6脈
2. 外邪による場合
 - 風寒邪／湿邪／熱邪
3. 臟腑弁証
 - 心肝火旺
 - 肝陽上亢
 - 肝腎陰虚
 - 肝鬱脾虚



第1章

脈診の基礎

脈診で得た脈象は人体の気血陰陽や病邪の状況を反映し、実際には、個性差や外部環境、そして正確な脈診法を無で正確な脈象が得られないことがあります。そのために、に必要な基礎知識がありますから、その基礎知識を大きく紹介します。

その4つの内容とは、1つめは患者の個性差、2つめは外部環境、3つめは脈診の方法、4つめは症候との関係についてです。

脈診の基礎知識



図1 脈診の基礎知識

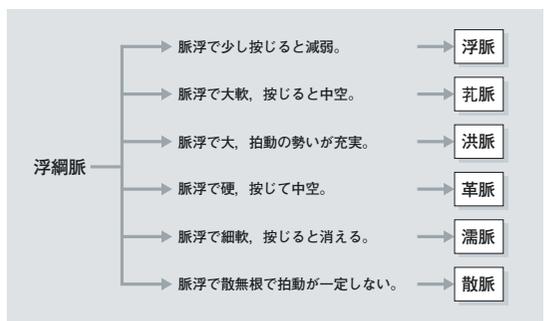
これからこの4つの項目について順番に説明していきます。



第2章

浮網脈

浮網脈とは、浮取で脈象が一番はっきりしている脈の総称です。脈の太さや硬さなどに関係なく、浮取で最もよく触れる脈のグループのことを指します。



おのおのの脈象についてはこれから詳しく説明しますので、ここでは浮網脈にどのような脈があるのかがわかれば十分です。

●脈浮と浮脈の違い

脈浮というのは、浮取で脈象が一番はっきりしている脈のことで、浮網脈の条件となる脈です。一方、浮脈は病脈の1つで、脈浮で少し按じると減弱するが、中空でない脈のことです。